

# おあしす



Desert Technology XII (DT XII, エジプト) にて  
上段左：カイロ大学. 上段右：国立カイロ博物館. 下段：ギザのピラミッド.

(写真提供：川端良子)

## 日本沙漠学会 2016 年 第 27 回学術大会開催のお知らせ

### 1. 大会概要

日時：2016 年 5 月 28 日（土）～ 29 日（日）

場所：鳥取大学乾燥地研究センター多目的室

〒 680-0001 鳥取市浜坂 1390

アクセス <http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/guide>

### 2. 研究発表申し込み

発表申し込み締め切り：2016 年 3 月 25 日（金）必着

発表形式は口頭もしくはポスターのいずれかとします。なお、申込者数・会場スペースの都合により、調整させていただく事がありますので、あらかじめご了承ください。口頭発表は、プロジェクターによる PC ファイル（PDF, ppt 等）での発表となります。

申し込みは、締め切り日までに E-mail または郵送（期日必着）で、以下の様式にそって必要事項を記入の上、実行委員会事務局へお送りください。申し込まれた方には、講演要旨の様式・発表時間等をお知らせします。

発表要旨締め切り：2016 年 4 月 22 日（金）必着

### 3. 参加申し込み

参加申し込み締め切り：2016 年 5 月 15 日（日）必着

3 月発行予定の学会誌（25 巻 4 号）同封のはがきにて、会員の方すべてがご回答ください。ご欠席の場合でも総会成立のためには委任状が必要となります。またご出席の場合には事前登録扱いになり参加費が割引になります。

### 4. 問い合わせ・研究発表申し込み先

第 27 回 日本沙漠学会学術大会実行委員会 事務局

〒 680-8550 鳥取市湖山町南 4 丁目 101

鳥取大学農学部 齊藤忠臣

TEL 0857-31-5391（内 5470） E-mail : jaals2016@gmail.com

〔委員長〕 藤巻晴行（鳥取大学）

〔実行委員〕 安萍・黒崎泰典・安田裕・清水克之（鳥取大学）

〔事務局〕 齊藤忠臣（鳥取大学）

詳細はホームページ <http://www.jaals.net/> をご覧ください。

#### ----- 研究発表申し込み様式（下記の項目に従ってご記入下さい） -----

1. 発表種別：（口頭 or ポスター）
2. 題目（和文）：
3. 題目（英文）：
4. 発表者氏名： ※なお、登壇者は 2015 年度学会員であることを要します。
5. 発表者所属：
6. 概要：（和文 200 字）
7. 連絡先：（氏名、住所及び TEL/FAX 番号、E-mail アドレス等連絡方法）
8. ポスター発表の希望者で、発表者が下記ベストポスター賞の対象者としての条件を満たす場合は、審査の対象分野（理系 or 複合系）を記載してください。

## 日本沙漠学会 2016 年 第 27 回学術大会におけるベストポスター賞について

日本沙漠学会では、学術大会においてポスター発表をする若手会員を対象に、内規第 11 条に基づいてベストポスター賞を設けています。若手会員は、ぜひチャレンジしてください。なおベストポスター賞の受賞式は、学術大会の期間中に開催される懇親会にて執り行う予定です。

### 第 11 条 学術大会ベストポスター賞に関する内規（抜粋）

- (2) 受賞候補者は原則として、当該年度において満 35 歳以下の発表者とし学部生、大学院生と大学院修了・中退後 3 年未満の者などとする。なお受賞候補者は、会員で、かつポスターの説明者とし、第一著者でなくてもよい。さらに、当該年度において 36 歳以上の会員が受賞候補者としての選考を希望する場合には、その理由書を学会賞審査委員会（以下、審査委員会）（幹事）宛に郵送してなければならない。
- (3) 対象分野  
本賞の対象分野は理系、複合系からそれぞれ 1 件を選出する。選考対象の発表がない場合は該当なしとする。なお、受賞候補該当者は、発表申込時に、どの系での審査を希望するか明記することとする。
- (4) 審査方法  
採点者は、以下の 2 項目について採点する。
  - a. 研究内容（目的・意義，研究方法，結果・考察，成果，発展性など）
  - b. ポスター表現とポスターを用いての説明技術，熱意など

問い合わせ先：

日本沙漠学会 総務委員／学会賞審査委員 E-mail：desert@nodai.ac.jp

## 2015 年度学会賞受賞候補者推薦のお願い（再掲）

日本沙漠学会正会員 各位

日本沙漠学会会長 小島 紀徳  
学会賞審査委員会委員長 白石 雅美

日本沙漠学会細則第 34 条にもとづき、日本沙漠学会賞（学会賞，学術論文賞，進歩賞，奨励賞の 4 賞）を公募いたします。つきましては、学会賞受賞候補者を下記の要領でご推薦下さいますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1. 学会賞の種類

- (1) 日本沙漠学会学会賞 : 本学会において学術かつ事業活動に顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞 : 「沙漠研究」に掲載された論文により乾燥・半乾燥地に関する学術上の顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (3) 日本沙漠学会進歩賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する技術的，実践的な業績を挙げた会員または会員を含む団体に授与する。
- (4) 日本沙漠学会奨励賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する。この場合の受賞者は，原則として当該年度において 35 歳以下の会員とする。なお，35 歳を超えた会員を奨励賞に推薦する場合には，その理由書を添付する。

#### 2. 推薦期限 2016 年 2 月 26 日（金） 当日消印有効

#### 3. 推薦方法 以下の書類を期限までに学会賞審査委員会（幹事）宛に郵送して下さい。なお，推薦には「自薦」は含まれません。

- (1) 日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞を推薦する場合  
様式 1 の推薦書 1 部  
推薦に関する業績資料 1 組
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞を推薦する場合  
様式 2 の推薦書 1 部  
推薦に関する論文，研究業績資料 1 組

#### 4. 宛先（照会先）

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科  
広域環境情報学研究室 気付 日本沙漠学会 学会賞審査委員会 幹事 豊田裕道  
TEL : 03-5477-2494 FAX : 03-5477-2620 E-mail : h1toyoda@nodai.ac.jp

#### 5. その他

応募された書類は返却しませんので，必要な場合は写しを保管下さい。

なお，過去の受賞者については日本沙漠学会ホームページ (<http://www.jaals.net/>) をご参照下さい。

## 様式 1

(日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞用)

平成 年 月 日

## 日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞推薦書

1. 推薦者 所属：  
氏名： 印  
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：  
氏名： 生年 年 月 日  
住所・電話：  
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

## 様式 2

(日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞用)

平成 年 月 日

## 日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞推薦書

1. 推薦者 所属：  
氏名： 印  
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：  
氏名： 生年 年 月 日  
住所・電話：  
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する論文，研究業績資料リストなど  
著者名（共著の場合は全員），題目，掲載誌名，巻号，頁，発行年を記載すること。

## 記入上の注意

- 1) 書 式 A4 縦置横書き，明朝体 12 ポイント，上下左右マージン 2.0cm 以上，1 行文字数 35 ～ 40 字，1 ページ行数 35 ～ 40 行
- 2) 被推薦者 被推薦者が団体の場合は団体名およびその代表者を記入して下さい。
- 3) 推薦理由 箇条書きの場合は約 100 字以内で説明して下さい。  
箇条書きでない場合は全体を 400 字程度で記載して下さい。
- 4) 様式 1 「日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞」の場合 5. 資料リスト内容のコピーなどを添付して下さい。
- 5) 様式 2 「日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞」の場合 5. 対象論文の別刷り（コピー可），研究業績リスト内容のコピーなどを添付して下さい。



## 日本緑化工学会 乾燥地緑化研究部会 第21回公開シンポジウムのご案内

世界各地の乾燥地において進行している生態系の劣化（砂漠化）は、砂嵐の発生や温暖化の促進を通して農業生産に多大な影響を与えています。これらの生態系劣化に歯止めをかけるためには砂漠化土地の修復とその利用が持続的に行われるための方策を考えなければなりません。そこで、本シンポジウムでは世界各地の乾燥地を取り上げて、それぞれの生態系の特徴や課題についての知見を共有し、砂漠化土地の課題と対策を考えていくために、「乾燥地の生態系とその課題」というテーマで、シンポジウムを続けています。今回は、西オーストラリアの乾燥地生態系を取り上げて、話題提供を頂きます。乾燥地にもそれぞれ特徴があり、個性があることが分かることで、乾燥地生態系の保全・修復やその持続的利用のための新しい展望が見えてくるのではないかと期待しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

テーマ：乾燥地の生態系とその課題

5. 西豪州における温暖化対策植林と塩害・湛水害対策植林

日時：平成28年1月24日（日曜日）13：30～

場所：成蹊大学14号館5F 演示室 (<http://www.seikei.ac.jp/gakuen/accessmap/>)

主催：日本緑化工学会乾燥地緑化研究部会

共催：日本沙漠学会

参加費：無料

プログラム

司会進行：吉崎真司（乾燥地緑化研究部会 幹事，東京都市大学環境学部 教授）

13:30～13:35 開会のあいさつ 吉川 賢（乾燥地緑化研究部会 会長）

13:35～14:20 西豪州乾燥地・半乾燥地での生態植林の課題－乾燥・塩害・湛水害－  
菅沼秀樹（成蹊大学理工学部 客員研究員）

14:20～14:30 休憩

14:30～15:15 温暖化対策植林としての乾燥地植林  
江頭靖幸（東京工科大学工学部 教授）

15:15～16:00 塩害・湛水害対策植林としての半乾燥地植林  
宇都木 玄（森林総合研究所植物生態研究領域 チーム長）

16:00～16:10 休憩

16:10～17:00 質疑応答と総合討論

（コーディネーター：山中典和（乾燥地緑化研究部会 幹事，鳥取大学乾燥地研究センター 教授））

（登壇者：講演者（菅沼秀樹，江頭靖幸，宇都木 玄），プロジェクトリーダー（小島紀徳））

問い合わせ先：

日本緑化工学会 乾燥地緑化研究部会

会長：吉川 賢 岡山大学大学院環境生命科学研究科（電話 086-251-8987）

E-mail：kenchan@okayama-u.ac.jp

幹事：山中典和 鳥取大学乾燥地研究センター（電話 0857-21-7039）

E-mail：yamanaka@alrc.tottori-u.ac.jp

吉崎真司 東京都市大学環境学部（電話 045-910-2556）

E-mail：shin@tcu.ac.jp

三木直子 岡山大学大学院環境生命科学研究科（電話 086-251-8377）

E-mail：miki@okayama-u.ac.jp

## 2016年 日本沙漠学会 秋季シンポジウムのお知らせ

日本沙漠学会では、2016年度の秋季シンポジウムを10月15日（土）もしくは22日（土）に、名古屋学院大学のサテライトキャンパス「栄」において開催する予定であります。皆様是非ご参加ください。

### 学会記事

#### 日本沙漠学会第122回理事会 議事録

日時：2015年10月16日（金）15:00～17:00

場所：東京農業大学世田谷キャンパス 生産環境工学  
科バイオロボティクス研究室木工室

出席：小島紀徳（会長）、吉川 賢、渡邊文雄（以上、副会長）、川端良子、白石雅美、田島 淳、田中 徹、豊田裕道、矢沢勇樹（以上、理事）、中村 徹（以上、監事）、島田沢彦（総務委員）、佐藤周一（編集委員）、岩本 彰、今村 薫、中村謙仁、的場泰信（以上、オブザーバー）

委任状：酒井裕司、鈴木伸治、高橋新平、森尾貴広、吉崎真司（以上、理事）

#### I. 審議事項

- 第121回理事会議事録確認
- おあしす原稿確認  
おあしす原稿を基に、2015年秋季シンポジウムについての確認がなされた。
- 2015年第26回学術大会会計報告  
実行委員会事務局より送付された会計報告を基に庶務担当から説明がなされ、承認された。
- 小堀初代会長の著書の寄贈（200冊）の取り扱いについて  
会員数は現在350名であることから、当初理事の中から提案されていた会員への配付は難しい。学術大会、シンポジウム等で希望者に配付することとした。分科会長にメールで案内を出す。
- 2016年秋季シンポジウムについて  
10月15日もしくは22日に名古屋学院大学のサテライトキャンパス「栄」の80名の部屋において開催予定。
- 今後の学術大会・秋季シンポジウムの開催地について
  - ・2015年秋季シンポジウム：NTC インターナショナル（会場：NTC コンサルタンツ）
  - ・2016年学術大会：鳥取大学
  - ・2016年秋季シンポジウム：名古屋学院大
  - ・2017年学術大会：千葉工業大

- ・2017年秋季シンポジウム：筑波大学
- ・平成2018年の学術大会について、石巻専修大に働きかけをする。

#### II. 報告事項

- 編集委員会
  - ・8月31日からJ-Stageに公開した。アクセス件数について報告された。今後、アクセス件数をおあしすに掲載する。
  - ・10月9日に国立国会図書館よりISSN登録手続き完了の通知があった。
  - ・投稿論文審査状況、企画に基づいた論文執筆依頼状況等が報告された。
  - ・編集幹事の菅沼会員の帰国に伴って、代理を務めていた佐藤会員から引き継ぎを行った。
- 学会業務等の外部委託に関するWG報告  
委員：渡邊（委員長）、鈴木、田島、高橋、矢沢、田中、森尾、酒井、白石、島田
  - ・J-Stageでの公開に伴い冊子体の廃止も視野に入れて、外部委託の経費、メリットなどについて会員から広く意見を聴取する。

#### III. その他

- 地球惑星連合会議報告（渡邊副会長）
  - ・10月8日に東大地震研において行われた学協会長会の内容について報告された。
  - ・公募中の大型研究計画調書についての問い合わせに対してはHPに掲載へ掲載する方向で検討する。
- 今後の理事会日程
  - ・次回第123回理事会は、1月8日（金）15:00～、東京農大で開催することとした。
  - ・第124回理事会・第29回評議員会は、2016年4月15日（金）、第125回理事会は鳥取で開催、第126回理事会は7月15日開催とする。また第127回理事会は、秋季シンポジウムが10月15日開催の場合は、名古屋開催も検討する。

\* \* \* \* \* 会 員 動 向 \* \* \* \* \*

●新入会員

正会員 (2015 年度入会)

藤本 直也 (ID:1077, NTC インターナショナル株式  
会社)

包 海岩 (ID: 1078, 名古屋大学)

實野 雅太 (ID: 1079, 東京農業大学大学院)

山崎 正史 (ID: 1080, 国際農林水産業研究センター)

●退会会員

正会員

大西 暁生, 初倉 克幹

~~~~~ 賛助会員・団体会員名簿 ~~~~~

|                     |          |                 |                    |
|---------------------|----------|-----------------|--------------------|
| アースアンドヒューマンコーポレーション | 194-0041 | 町田市玉川学園 8-3-23  | Tel : 042-710-7661 |
| 株式会社ウイジン            | 158-0097 | 世田谷区用賀 2-12-14  | Tel : 03-3700-0531 |
| NTC インターナショナル株式会社   | 164-8721 | 東京都中野区本町 1-32-2 | Tel : 03-5354-3621 |
| 株式会社大林組技術研究所        | 204-8558 | 清瀬市下清戸 4-640    | Tel : 0424-95-1060 |

~~~~~



## 書 評

大山修一 著：「西アフリカ・サヘルの砂漠化に挑む—  
ごみ活用による緑化と飢餓克服、紛争予防」昭和堂、  
2015年3月31日発行、315頁、5,000円



現在、西アフリカのサヘル地域は、アルカイダ系の反政府組織やボコ・ハラムといった武装勢力によって情勢が不安定になっている。これらの組織にはサヘル農村部の貧困や飢餓等によって生活が立ちゆかなくなった若者が加入しているという。そのため、サヘル地域の政治・経済的な安定を目指すには、その問題の根底にある地域住民の生活を向上させること、すなわち、貧困や飢餓の解決にも目を向けなければならない。そしてそれは、サヘル地域において長らく課題とされてきた砂漠化への対処と密接につながっている。

砂漠化対処には様々なアプローチがあるが、その中で重要なのが、対象とする地域の社会的・自然的な条件を活かした適正技術の適用であるといわれる。本書は、サヘルの人々とともに暮らし、人々から学び、人々とともに考えることを通して、その土地にあった適正技術を発見し、その適用を試みたものである。住民との試行錯誤から生まれた「ごみをまく」という方法を提示することにより、本書は砂漠化や農耕民と牧畜民の争いといったサヘル地域の複合的な諸問題を解決するための緒を示している。

本書の構成は以下のとおりである。まず、第1章では対象とするサヘル地域の概要と砂漠化等の地域が抱える課題について説明される。次に第2章と第3章でサヘル及び調査地の概要、第4章から第6章では、調査地のハウサの人々の生業や社会関係、価値観等に関して詳細に記述されている。ハウサの民族誌としても読めるこれらの章からは、著者が地域の問題解決のために当該社会へ

の理解を重視している姿勢が伝わってくる。第7章と第8章では、本書の核となる砂漠化対処の方法と実践について説明される。ハウサの人々は、荒廃地と認識する土地に生活ごみをまき、回復させようとする試みを行っていた。それを発見した著者は、様々な実験によりその方法が荒廃地の復元にどのように寄与しているのかを定量的に示している。その後、第9章で本書のもう一つの核となる農耕民と牧畜民の衝突が描かれる。これらの事例をもとにして、第10章においては、7・8章で紹介された環境修復技術を農耕民と牧畜民の衝突の予防に活かす試み、すなわち都市部からごみを調達して荒廃した放牧地にまき、家畜の採食資源を確保することによって農耕民の畑への家畜の侵入も同時に防ぐという方法が紹介される。最後に第11章では、本書で提示された方法を都市と農村の物質循環や資源の分配などに位置づけることなどを通して結論が導かれている。

本書において、砂漠化への対処として荒廃地に雑多な生活ごみをまくというごくシンプルな行為が有効であるということが科学的に提示されたという点が重要な成果である。また、アフリカ諸国では都市人口の急速な増加にともない、ごみの増大が問題となっている。本書で示されている都市部のごみを農村の荒廃地にまくという方法は、農村住民にとっての砂漠化問題だけでなく、都市の社会問題を改善する可能性をも秘めていることにも意義があるだろう。

一方で、これまで数多く実施されてきた砂漠化対処策を振り返ると、住民に負担がかかる施策はほとんど普及・定着してこなかった。本書で提案された画期的な方法を一地域の成功事例で終わらせないためには、ごみを都市から輸送する手間や手段、コスト、そしてハウサ以外の民族集団がこの技術を適用するのかといった課題を解決し、普及に向けた方策を考えていく必要があるだろう。また、著者も指摘するようにごみの安全性も解決すべき問題である。しかし、これらの課題を加味してもなお、上述のように様々な課題を解決する可能性を秘めた本書の事例は魅力的に思える。ニジェールの政情不安が最も憂慮される点ではあるが、著者と住民との信頼関係のもとで生まれた技術がより広い範囲で適用され得るのか、今後の展開に期待したい。

本書は乾燥地や砂漠化に興味がある読者はもちろんのこと、地域の問題を住民の目線で理解するためにフィールドワークを行おうとする学生や、それを実践に結びつける実務者や専門家にとっても示唆に富む内容である。ぜひ一読を勧めたい。

手代木功基（総合地球環境学研究所）